

器の大きい人は、余裕を味わう。

器の小さい人は、ぎりぎりを味わう。

器の大きさは、時間の余裕を作れば、自然とできます。

あらゆる余裕を確実に作り出します。

その人の輝きへと変わります。

たとえば、仕事で会社へ入社するときです。

会社へ時間ぎりぎりに入社する人は、余裕のない人です。

目覚まし時計に叩き起こされ、飛び起き、パンを口にくわえながら家を飛び出ます。

9時に入社なら、8時58分に到着します。

まさにぎりぎりです。

「別に早く来ても仕方ない」「何もすることがない」と思っています。

往々にして、仕事が嫌いな人ほど、ぎりぎりに入社しています。

嫌だから、少しでも仕事に触れる時間を短くしたい。

しかも入社してまず何をするのかというと、休憩です。

汗を拭いて、呼吸を整え、しばらく仕事に手を付けられません。

ぎりぎりこそ快感だと勘違いしています。

そういう一連の動作から、器の小ささがうかがえます。

一方、時間より早く入社する人は、余裕のある人です。



10分前は当然のこと。

人によっては30分や1時間も前から早く出社します。

もちろん仕事に早く手を付けてもいいですが、早く出社するからとはいえ、別のことでもかまいません。

新聞を読んだり読書をしたりします。

許されるなら、会社のデスクで朝食やコーヒーでもいいでしょう。

ほかの人より早く出社し、読書で脳をリフレッシュさせたり、仕事を早めに手を付けたりします。

そうすると、明らかにぎりぎりに出社する人との間に、雲泥の差が出ます。

余裕は力です。

器の大きい人は、そういう余裕こそ気持ちよく感じているのです。

器の大きい人になる方法 その6

時間の余裕を作る。